

*Club Je Pense*

2021年9月講義

コロナ渦における哲学の使い方

原点回帰

ジュパンセ発足の目的は

哲学をわかりやすく

かつ

実生活で応用し豊かになる

そのための手助けになる

ここで言う哲学とは  
西洋の現代哲学がメインですが  
その理由としては  
世界を理解する道具として  
使い勝手が良いからです

西洋現代哲学は  
世界を明晰に理解する道具として  
非常に有用な代わりに  
理解するのが難解でもあります

ですから

世に出回っている哲学関連の本は

ニーチェなど近代哲学の

「私にとっての幸せとは」

のような実存主義のものが多い

あるいは  
難解な現代哲学を学んでも  
「語り得ないことは  
沈黙しなければならない」  
みたいな哲学者の言説だけを  
暗記しても役には立たない



では

わかりやすい説明で理解することが  
一番良いことなのか？

わかりやすく説明すると  
どうしても本質的な部分が  
ぼやけたり抜けたりしてしまう  
場合もあるのは事実

ただし

本質を理解しようと難解な原書を読み  
全く理解ができず哲学を活用できない

という状態よりも

わかりやすい説明のため  
本質的な部分が抜け落ちていたり  
浅かったりすることもあるが  
実生活に役立つ哲学

という方が

有用有益だと考えています

簡易版の理解をきっかけに  
思考力を少しずつ高めていき  
いずれ難解な哲学の理解にも  
挑戦できれば幸いです



あくまでも

哲学という道具（技術）を  
それぞれの人生を充実させるために  
上手に使いこなすということが  
目標です

そのために  
世界の真理を探求する哲学と  
自分の生き方を探求する哲学と  
両立を目指す

イメージとしては  
世界を明晰化するのが  
現代哲学（主に分析哲学）  
生き方を探求するのが  
近代哲学以前の哲学

どちらが学術的には  
現代哲学は近代哲学以前の哲学より  
進歩的とされていますが  
それはあくまでも  
哲学という枠の中の話

どんなに最先端のカーナビ

(世界を明晰化する哲学)

があつたとしても

望ましい目的地を定めること

(生き方を探求する哲学)

ができなければ

人生をさまようことになる

逆に

人生の目的があっても  
そこへたどり着くための  
道のりや方法がわからなければ  
同じく人生をさまようことになる

世界の在り方を理解することで  
生き方のヒントになることもあり

生き方が明確だからこそ  
そのための情報を入ってくる

言い方を変えると

西洋思想は「真理の探求」

東洋思想は「道の探求」



現在のコロナ禍では  
どちらの方が重要なのでしょう？

# 結論

論理的思考力

と

タフな精神力

の両方が必要

それでは  
コロナ禍における哲学の使い方  
を考えていきましょう

一番の問題は

情報の収集及び処理

と

実行動

多くの人々の

情報収集は

「テレビや新聞やネットニュース」

処理方法は

「そのまま信じる」

実行動は  
「政府の指示に従う」

中には

今までの生活を変えたくないから

政府の指示に従わない

という人もいます

こういう人たちは  
メディアの情報よりも  
実行動による実感を優先している



問題意識の高い一部の人  
は  
情報収集は  
「非政府や非体制の独自の情報源」

だが

処理方法は

「そのまま信じる」

という人も多い

不安を払拭するために  
精神的に依存する対象を求めている  
という意味では  
マスコミ情報を鵜呑みにする人と  
大差ない

哲学的に考えれば  
人間の生存本能なので  
このコト自体に  
良いも悪いもありません

ただ

政府のいうことを鵜呑みにして

被害を被ることもあれば

独自情報を鵜呑みにして

被害を被ることもあります

この両者を俯瞰して  
情報処理をして  
実行動に移すために  
有用なのが哲学の技術です

まずは

①世界の明晰化

まずは

①世界の明晰化



真実を解明することは不可能なので  
既出の情報を元に  
パターンごとの仮説を立てる

死後の世界という  
非科学に対して  
科学的に対処するように

次に

②生き方の探求

望ましい生き方を明確化し  
そのための実行動を自責において  
選択する

この2つの哲学技術が使えれば  
精神的な不安は激減する

## ワーク 1

情報を鵜呑みにしないとしたら  
具体的にどうしたらいい？

## ワーク 2

後悔しない選択をするために？